



【まきび文化祭を終えて】

今年度は、コロナ禍で様々な行事が中止または延期、変更を余儀なくされる中、まきび文化祭が行われました。今年度は、学部・部門ごとの開催で、観覧は当該児童生徒の保護者のみとさせていただきました。

11月になると、全国的にも感染者が増加し、岡山県でも1日の感染者が過去最高となるなど、不安な日々が続く中で開催でしたので、保護者の皆様にも、検温・消毒・マスクの着用などをお願いし、ステージ発表も販売も新しい生活様式に則ったものとさせていただきました。

【小学部】

低学年は大会議室、高学年は体育館に分かれてステージ発表がありました。

小学生らしい衣装を着たり、一人一人が日々の学習の中で習得したことを披露したりする場面があり、20分間の演技の中で、どの子も主役になる場面がありました。

廊下に飾られた展示も力作揃いで、工夫された作品が並んでいました。

【中学部】

全学年、体育館でのステージ発表でした。ステージだけでなくフロアも広く使って、のびのびと中学生らしく発表することができました。無理なく、日々の学習や行事の中で学んだことを台詞やパフォーマンスにして発表することができていました。一人一人が決意や感想を表明できたことにも成長を感じました。

作業学習で製作した品物は、12月の販売会に当該保護者を対象に販売します。



【高等部】

最も生徒数の多い学部です。ステージ発表6演目と大会議室での喫茶、作業班ごとの販売と盛りだくさんで、高校生らしい文化祭でした。

高等部には「自分たちで考えた文化祭」を運営させてあげたかったのですが、新しい生活様式の中では、提案したことを100%叶えてあげることができず、申し訳ない思いもあります。けれども、文化祭の成功のためには、後に不安を残さないことも大切だと考え、生徒たちに工夫してもらいました。

ステージでの発表は「さすが！」の一言です。まとまりのあるパフォーマンスに胸が熱くなりました。どの学年も予行より上手く演じていて『本番に強い高等部！』を証明できました。

職業コース3年生の「喫茶」は、最も気をつかい、工夫したコーナーです。コロナ禍のため飲食するテーブルには透明の衝立を立て、接客の際にはマスクと手袋を着用しました。大好評でお客様が後を絶たなかったのは有り難いことです。

作業班ごとの販売にも力が入りました。販売のための製品作りも張り切って取り組みました。

たくさんの方にたくさん購入いただき、ありがとうございました。

【肢体不自由部門】

開会式は全体で体育館で行いました。開会式は中学部・高等部の生徒が、司会、開会宣言、スローガンの発表など、一人一役で大活躍！でした。その後は、学部ごとに分かれて、小学部は体育館での「まきびコーション」。各々が楽器をもって演奏しながらの入場行進♪のあと、チームに分かれて激戦を繰り広げました。応援にも熱が入りました。授業で取組み、腕前を上げるとともに、大好きになった野球をおうちの方に見てもらえて、嬉しそうでした。

中学部・高等部は「まきびマルシェ」。心を込めて、こつこつと作ってきた製品を販売しました。作っている過程を見てきた私にとっては、どの製品も愛おしく感じました。製品が売れるたびに嬉しそうな生徒の顔に自信があふれていました。

(校長 西 千秋)

毎日更新

倉敷まきび支援学校ホームページ

倉敷まきび支援学校

検索



倉敷まきび支援学校 Facebook



いいね！おねがいします

